



レジ袋削減に関する共同アピール

現在、日本では国民1人当たり年間約300枚のレジ袋を使用しているとされており*¹、東京都内では39億枚も使用していることとなります。このレジ袋の製造から焼却の過程で排出される二酸化炭素*²は、一般家庭3万5千世帯が1年間に排出する量に相当し*³、これを吸収するためには、1,300万本の杉の木が必要となります*⁴。

これだけの量のレジ袋を今すぐに無くすことは大変難しいことですが、住民一人ひとりがレジ袋削減の意義を知り、意識を変え、行動することによって、多くのレジ袋を減らすことができます。こうした行動は、レジ袋の削減だけにとどまらず、自分自身の生活習慣を見直す契機となり、ひいては地球環境の保全や地球温暖化防止のために何をすべきかを考え、行動していくことにもつながります。

東京62市区町村は、レジ袋削減に共同で取組み、各市区町村が地域の実情に応じて次の行動を起すことを宣言します。

- 一、レジ袋削減に向けた社会的気運を高めるため、積極的に普及・啓発を行います。
- 一、住民、事業者と共同・連携して、地域の実情に応じたレジ袋削減の取組みを進めます。
- 一、レジ袋の削減をきっかけに、自然環境の保全と地球温暖化防止の取組みが広がるよう働きかけていきます。

2009年2月9日

*¹ 経済産業省「なつとく、知つとく3R」：1枚10gとして国民1人当たり年間300枚のレジ袋を使用

*² 社団法人プラスチック処理促進協会：1枚10gのレジ袋の製造・焼却で46.55gのCO₂を排出

*³ 全国地球温暖化防止活動センター：一般家庭1世帯当たり約5.2tのCO₂を排出

*⁴ 林野庁試算「地球温暖化防止のための緑の吸収源対策」：杉の木1本当たり年間約14kgのCO₂を吸収